

H17_ 都市公園・緑地に関するアンケート調査の実施

調査項目	都市公園・緑地に関するアンケート調査の実施
調査年次	平成17年度(5次調査) 章番号〔 〕
目的	大都市における住民の都市公園に関する意向把握とともに平成9年度調査との比較を行い住民意向の変化を探る。新たな施策展開への意向や公園の存在価値に関する意向を把握する新規項目を追加。
概要	23区を含む政令市から各都市500人、質問数は共通設問が30問、都市別設問(京都市・千葉市)。
結果	<p>全都市共通設問の結果</p> <p>都市の緑の増減 10年前に比べて「増えている」10.3%、「減っている」49.4%、「変わらない」40.4%。増えているのは「公園の緑」「道路沿道の緑」(6割超)、減っているのは「空き地の緑」「農地」「雑木林などの緑」の順で多い。</p> <p>緑の重要な機能 「地球環境の改善」「街や生活に潤いを与える」「都市環境の改善」の順で多く、年齢では女性の年代の高い層ほど「街や生活に潤いを与える」「都市環境の改善」が多く、若い層ほど「景観など美しい街並みの形成」が多い。</p> <p>今後増やしたり守ったりすべき緑 身近な緑は「公園の緑」61.8%、「道路沿道の緑」、「水辺の緑」の順で多い。都市全体は「道路沿道の緑」、「公園の緑」「都心部のオフィスなどの緑」の順で多い。</p> <p>緑化活動、緑化保全活動に対する住民の参加 「参加している」2.1%、「参加したい」39.8%、「参加したくない」6.4%。「どちらとも言えない」半数以上。</p> <p>行政への期待 「緑化施設の整備」「再開発等による都心部の緑化」「樹林地の保全」の順で多い。</p> <p>公園の緑の増減 10年前と比べて「増えている」15%、「減っている」18.8%、「どちらとも言えない」66.2%。増えている場所は、「住宅地の小さな公園」「校外の大きな公園」の順で多い。</p> <p>公園の重要な機能 「街や生活に潤いを与える」「安全な休息や遊び場」「レクリエーションの場」の順で多い。女性は「安全な休息や遊び場」「心の安らぎを与える場」、男性は「美しい街並みの形成」が多い。</p> <p>身近な公園の利用 「年に数回」37.4%、「月に2.3回」19.0%、「週に1回」12.8%。男性で年代が高い層ほど利用頻度が高く、女性では30代が高い。利用内容は「散歩や休息」「子どもの付き添い」「時間つぶし」「軽い運動やジョギング」の順。性別や年代によって公園の利用目的が異なる。</p> <p>公園の管理について 「よく管理されている」36.4%、「あまり管理されていない」34.5%、「どちらとも言えない」29.1%。今後管理で必要なことは「清潔で快適にする管理」「安全を確保する管理」「防犯に対応した管理」の順。自由意見では治安に対する対策を望む声が多い。</p> <p>大規模公園の利用 「年に数回」53.4%、「月に1回」15.4%、「月に2.3回」12.7%。男性の方が頻度が多い。利用内容は、「散歩や休息」「季節の花や植物の見物」「買い物や観光の立ち寄り」の順。年代の高い層ほど「季節の花や植物の見物」「自然観察」、若い層ほど「スポーツ活動」が多い。</p> <p>公園に必要な機能 身近な公園は、「安心して遊べる」「緑豊かな公園」「芝生や花のあるきれいな公園」の順で多く、大きな公園は、「自然を保全」「四季の花や緑が楽しめる」「災害時の避難地拠点」の順で多い。</p> <p>管理運営への参加に必要なこと 「活動する時間」「キッカケとなる行事」「仲間・組織」の順で多い。</p> <p>公園や緑の多い都市、美しい都市 世界では、ニューヨーク、パリ、ロンドン、スイスで札幌市民は自分の都市を上げている人が多い。日本では、札幌市、京都市を上げる人が多い。</p>
課題	
調査結果の反映等	

調査項目 都市公園・緑地に関するアンケート調査の実施

調査年次 平成17年度(5次調査) 章番号〔 〕

キーワード

意向調査、都市公園、市民意識、インターネット、モニター

事例公園等

札幌市 大通公園

仙台市 みちのく杜の湖畔公園、台原森林公園

さいたま市 大宮公園

東京都 新宿御苑

静岡市 駿府公園

名古屋市 名城公園

京都市 京都御苑

大阪市 大阪城公園

広島市 平和記念公園

北九州市 グリーンパーク

福岡市 大濠公園